



今号の厳選写真



西条まつりのフィナーレを飾る飯積神社祭礼。11台の太鼓台が寄せ合っのかきくらべ！一斉にさしあげる様はまさに勇壮、太鼓の音が体中に響き渡る。今年も見事!!

撮影・寄稿 総務課 佐竹紀子



理念

病める人の立場に立った、患者さん中心の医療
地域の期待に応えられる、より良い医療サービスの提供

当院は社会医療法人としての社会的使命を認識し、患者さんの立場に立った質の高い地域医療の提供に努めます。



方針

1. 医療の質の向上による疾病の早期発見と治療
2. 個人の権利を尊重し、患者さんと共に考える医療の実践
3. 医療に関する安全管理の徹底
4. 包括的ケアシステムによるサービスの提供
5. 地域社会との連携の推進、強化
6. 健全経営による病院運営



村上記念病院

MURAKAMI MEMORIAL HOSPITAL

市民公開講座

～脳卒中の予防について～



まだまだ真夏日、猛暑日が続いていた8月下旬、当院脳神経外科 藤田医師による市民公開講座が開かれました。たくさんの方が興味を持ち、足を運んでくださいました。脳卒中のサインを見逃さないよう、異常だと感じたらすぐに119番をする。また、普段から自分の健康状態を把握し、運動の習慣をつけ、食事の内容に気をつける。他にも禁煙についてのお話など、みなさん気になることを熱心に聴き、メモを取っておられました。来年も興味わく演題をご用意してお待ちしておりますので、ぜひいらしてくださいね！



敬老の表彰



敬老のお祝いに西条市長より、施設で過ごされている100歳になる方や、100歳を超えた方に記念品が贈呈されました。100歳まで元気でいられることは、素晴らしいですね！



ひよこハウスの秋祭り



秋風が心地よい10月上旬、一足早くだんじりがお目見えしました。保育士さんと子供たちの自信作を担ぎ、院内を練り歩く集団、大人顔負けの装いと掛声で、祭り本番が待ち遠しいようです。我が子はどこだと、お母さん職員たちは、子供たちに『お花』をあげたり、写真におさめたり、日々の忙しさも忘れ手を止めて喜んでいました。不意に現れた『かわいい担き夫たち』に、周りにいた外来・入院患者さんやお見舞いの方たちも大きな拍手をくれました。

また来年も来るからね～！



病院見学会を実施しました。

8月吉日、来春卒業予定の看護学生さん、既卒の看護師さんを対象に院内見学会を開催いたしました。参加者がいるかどうか不安でしたが、2名の学生さんと1名の既卒看護師さんが来てくれました。終始和やかな雰囲気で行うことができ、意見交換会では先輩ナースとも話が弾みました。これを機に、この病院に就職を決めてくれることを祈りながら会を終了しました。

来年も右の様な内容で実施予定です！参加希望の方はぜひぜひ、お問い合わせ下さい。

村上記念病院見学会

＜対象者＞
看護師・准看護師の資格をお持ちの方、または平成24年3月卒業見込みの看護学生

参加者募集

◆日時
平成23年8月27日(土)
午前10時～午後1時30分

◆募集人員
定員10名(先着順)

◆集合場所
病院1階ロビー(時間厳守)

◆内容
1. 病院概要説明
2. 関連施設紹介
3. 看護部の紹介
4. 院内見学
5. 意見交換会(親密にご利用します)

お気軽にどうぞ下さい！
お申し込み・お問い合わせ先
Tel. 0997-70-2300 または
E-mail: jyocho@murakami-hospital.co.jp
村上記念病院 総務課 佐竹までお願いします。



あなたのその夢、手助けします！

奨学金制度

が利用できます！

私たち「村上記念病院」では、看護系を目指す学生さんや、将来の夢を叶えるために奨学金を利用したいと考えている方々をサポートするために、奨学金制度をご用意しております。

※学費だけでなく、生活費もサポートいたします。

◆奨学金の種類
① 給付型奨学金
② 貸付型奨学金

◆給付型奨学金
学費だけでなく、生活費もサポートいたします。

◆貸付型奨学金
学費だけでなく、生活費もサポートいたします。

※詳しくは、総務課 佐竹までお問い合わせください。

更生会では奨学金制度があります。将来看護系学校へ進学希望される方や、在籍中の方でも大丈夫！来年度からの貸与者募集中です。詳細は、総務課 佐竹まで。

第2回 放射線被曝の影響とは

放射線科部長
村上省吾

前回は放射線防護とシーベルトについてお話しました。少し復習しますと、シーベルトは被曝した人体の受ける影響の大きさ(線量当量)を示す尺度です。放射線にはいくつか種類があり、それぞれ人体への影響の度合いが異なります。

たとえばX線、 α 線、 β 線、 γ 線や中性子線などですが、これらを共通の尺度で比較するためにシーベルト(Sv)という単位を使う訳です。線量当量とは、吸収線量(放射線から受けるエネルギー)に、法令で定められた係数(放射線の種類ごとに定められた人体の障害の受けやすさ)を掛けたものです。

さて放射線にさらされる(被曝)事により生じる影響とはなんでしょうか？最近のいろいろな記事や情報番組などでは頻りに報じられているためある程度はご存じと思います。

話はちょっとそれますが、人類史上初めて原爆が使用された6、70年前に作られた映画「渚にて」(名作です！)を見られた方、覚えておいででしょうか？核戦争により放射能汚染が拡散し、最初に北半球が全滅、徐々に南半球に広がり、世界が死滅してゆく様子を潜水艦艦長とその恋人が綴るストーリーです。

この映画では放射能汚染は、まるで伝染病が広がるかの様に表現されておりました。放射能汚染の実態が把握される以前のお話なので無理ありませんが、見えない放射線がウィルス同様に扱われるのは至極当然なのかもしれません。

やっかいな事に私たちは放射線を見ることもさわることでもできません。そのため計測方法や装置が必要になりますが、最近は輸入された線量計が店頭やネットなどで比較的安価(といっても数万円ですが)に売られており、都内で持ち歩いて線量計測している方がいるようです。

フィルムパッチ(病院などで医師や看護師が胸につけている板)ではスポットができるほどの線量を一時期に出す放射性物質は検知可能と思いますが、微量線量はほとんど計測することは困難です。正体が分かってきているのに人間の五感では触れられないもどかしい存在といえるでしょう。

また古い話ですが、約半世紀前のビキニ環礁での米軍水爆実験で大量の放射性物質(死の灰)が拡散し、海や島に落下した事件がありました。実験場から離れていたにも関わらず、安全域にいたはずの数百隻の漁船が被曝しました。特に日本の第5福竜丸乗組員には死の灰による放射線被曝で死亡者が出ました。しかし、当時も今も米国は放射線が直接の死因ではないとの見解をとったままです。

そして記憶に新しい東海村の臨界事故で、放射線被曝による急性期障害が発生しています。どちらの事件においても、亡くなられた方と助かった方がいると言う事実は被曝量には生死を分ける境界線(しきい値)がある事が予想されます。

高線量放射線は悪性腫瘍の治療に使用されています。1ヶ月ほどの治療期間に患部には総線量30~60Gy(グレイ)が照射されます。高エネルギーのX線の係数は1ですので、1Gy=1Svとなります。60Svは一度に被曝すると死に至る高線量ですので、悪性腫瘍を十分死滅させる事ができる=治療できるという事になります。高度に安全管理された状況であれば、がん治療の先端医療になるわけです。

1. 身体的影響と遺伝的影響

身体的影響とは、被曝者が放射線を浴びることによって出現する症状や現症であり、遺伝的影響は遺伝子が破壊されることにより起こりうる障害・病気などがあげられます。

2. 早期影響と晩発(時間経過後の)影響

これは被曝直後から発生する障害・影響などです。頭痛やめまい、嘔吐などの消化管症状、ある程度時間がたって起こる炎症や組織壊死・遺伝子組み替えによる病気などがあります。

いずれも、6、70年前の原爆被曝者(広島・長崎やビキニ環礁実験など)の調査から得られた高線量の被曝経験・情報を元にしてしています。その中で、特に被曝線量に着目したものに確定的影響(注1)と確率的影響(注2)があります。

- (注1) 確定的影響とは一定の値(しきい値)を超えると発生する障害で、たとえば生殖障害 や 白内障、骨髄の障害、急性放射線症などがあります。
- (注2) 確率的影響とは被曝線量が高くなると、徐々に発生確率が高くなる障害、がんや遺伝的影響が考えられています。
- ただし、これまでの研究では疫学的にも被曝により人に遺伝的な影響が出た報告例はありません。多くの文献では遺伝的な影響に関しては問題ないとの見方が一般的です。発がんに関しては多くの発ガン物質や食生活、喫煙など放射線被曝よりも高い確率を示すものが多く、特に診療放射線被曝による発がんの確率はきわめて低いと考えられます。

高濃度の放射能汚染のデータは蓄積されてはいますが、有史以来たかだか6、70年の経験しかないため、長期被曝など未知の領域が多く残されています。手元に蓄積したデータからの推測や仮定が頼りであるため、想定外の事例が起こりうるのです。万一の事故に備えるため、常に経験値を上げる努力(情報収集)が必要です。

生活環境の放射線についてはまたの機会に...

第5回 むらかみきねん寄席

上方落語界の中堅 参上!!

◎日時:平成23年12月14日(水)午後2時から
◎場所:村上記念病院6階 多目的ホール
今年の暮も、大いに笑って過ごしましょう
ご近所お誘い合わせて、来てね!

かつら さん ふう
桂 三風

1961年6月26日生まれ。滋賀県出身。本名は竹田俊英(たけだとしひで)。

1984年に桂三枝に入門。師匠の桂三枝が、「落語界の新しい風になれ!」と名付けた芸名、三風。

「お客さんにより楽しんでもらおう、もっともってお客さんに落語の世界に入ってもらって演者と客席が一体となった新しい落語を創り出そう」とあみ出したのが、落語界初、三風オリジナル、史上初『客席参加型落語』だ。ライブには、映像では伝えきれない空気がある。また、感動がある。そして、いつまでも心に残る。ライブの良さは、テレビの一方通行の笑いと異なり、同じ空間に自分とお客さんが存在することならではの楽しさがある。ならば、存在感だけでなくそのまま落語に参加してもらおう!と新スタイルの『客席参加型落語』を生み出したのだ。



◎入場無料:お問合わせ先
0897-56-2300(代)
主催:村上記念病院
西条市大町739番地

H23年
10月28日

愛媛新聞に掲載されました



高齢患者 食べる喜び

かむ力が衰えた高齢患者らに食べる喜びを取り戻してもらおうと、西条市大町の村上記念病院(村上匡人院長)がこのほど、見た目は普通の料理に近いものの、軟らかく加工した「やわらか食」の提供

西条の病院

を始めた。市販のやわらか食を採用する医療・介護施設は県内でも広がっているが、同病院では院内で管理栄養士が医師や看護師、言語聴覚士らと連携してメニューを考案、調理しているのが特長。

えひめ メディカル

「やわらか食」スタッフ考案

従来は患者に応じて普通食から細かく包丁を入れた刻み食やほとんど液状のミキサー食を提供してきたが、このうちミキサー食は見た目では何が入っているのか分からず、味気なさがネックだった。

そこで「少しでも患者の食欲増進につながれば」(同病院)と、舌でつぶせる程度の食感を残しつつ、見た目も通常の料理に似せた、やわらか食の導入を決定。3カ月の試作を経て9月から昼と夜の2食で提供を開始した。毎日150人前後の食事を手掛け、やわらか食の対象は1割程度という。

調理は素材を液状にすりつぶした後、食品

見た目にもおいしく



西条市の村上記念病院が手掛けるやわらか食(手前)。奥は同じ素材のミキサー食。26日、同市大町

用の凝固剤を入れて85度以上まで一度熟し、急速に冷却して固形化する。もとの素材が魚なら魚の形に、野菜なら野菜と分かる形に切り抜くなどして盛り付けられる。のみ込みで問題が起きないよう硬さや粘りなどの程度は外部機関で測定している。

青野明子栄養課長は「一度液状になったとは「ミキサー食」に比べ、さ思えない「再生」ぶり。らに1時間半程度、調長期入院中の母親(91)に時間がかかるようの食事介護をしているようになったが、患者から渡辺みづさん(62)は「食べやすい」と好評。魚はミキサーですりつぶしても口の中に残りやすく、やわらか食のおかげで自然とかむようになり、本人の刺激にもなっている」と感謝。やわらか食は患者をサポートする側にとってもプラスに働いていると、うた。(松下和人)

院内ボランティアを募集しています

当院では、地域に開かれた病院運営を行うことを目的に、一人一人の患者さんを大切に思い健康回復をともに願って下さり、無償の善意で定期的に活動していただける院内ボランティアを募集しています。ボランティアの方には年1回の無料健診をうけていただいております。また、単発的な活動をしていただける方も歓迎いたします



《お問合せ先・お申し込み先》
村上記念病院・地域医療連携室
TEL・0897-56-2300 (代表)

0897-56-2281 (直通)

当院は専門胃瘻造設認定施設です



PEG・在宅医療研究会より専門胃瘻造設施設として認定証が交付されています。当院には、2名の胃瘻造設医師及び専門管理医師と2名の専門管理士が在籍しています。



栄養課イベント食のご紹介②

秋の味覚弁当

H23年9月29日（木）にイベント食『秋の味覚弁当』の提供を行いました。入院患者様や水都苑利用者様には、いつもとは少し違う雰囲気を楽しんでいただけました。



おしながき

- ・栗赤飯
- ・鮭のほうれん草ソースがけ
- ・煮合わせ
- ・小松菜の和え物
- ・出し巻卵



今回は、9月より新しく導入した食形態の《やわらか食》もお弁当での提供を行いました。各食材を一度ミキサーにかけたものを飲み込みが上手にできない患者様での飲み込みやすい硬さに再形成しています。とくに花人参や高野豆腐、出し巻卵はそっくりに見えませんか？



市内病医院探訪 としまり内科

【所在地】
西条市下島山甲1264-4
TEL 0897-53-6300
FAX 0897-53-6420

診療科目

内科・胃腸科

診療時間

平日	午前	AM	9:00~12:00
	午後	PM	2:00~6:00
土曜日	午前	AM	9:00~12:00
	午後	PM	1:00~3:00

休診

日曜日・祝日
木曜午後

院長：年森 司
(としまり つかさ)
出身地：宮崎県都城市
診療科：内科・胃腸科

内科系のいろいろな疾患で診察します。生活習慣病の予防、治療もおこないます。また、消化器領域では、内視鏡、特に鼻からの内視鏡で胃がんの早期発見に役立ちたいと考えています。今後も、病診連携で宜しくお願いします。

